

# 東西軸の取組

# (目次)

## (1) 取組の背景と目的

- ①取組の背景
- ②取組の目的

## (2) 令和3年度 of 取組内容

- ①アンケート調査
- ②先進市視察
- ③ワークショップ
- ④将来像の検討

## (3) 今後の取組の方向性

- ①社会実験
- ②ストリートデザインガイドラインの検討

# (目次)

## **(1) 取組の背景と目的**

- ①取組の背景
- ②取組の目的

## (2) 令和3年度の取組内容

- ①アンケート調査
- ②先進市視察
- ③ワークショップ
- ④将来像の検討

## (3) 今後の取組の方向性

- ①社会実験
- ②ストリートデザインガイドラインの検討

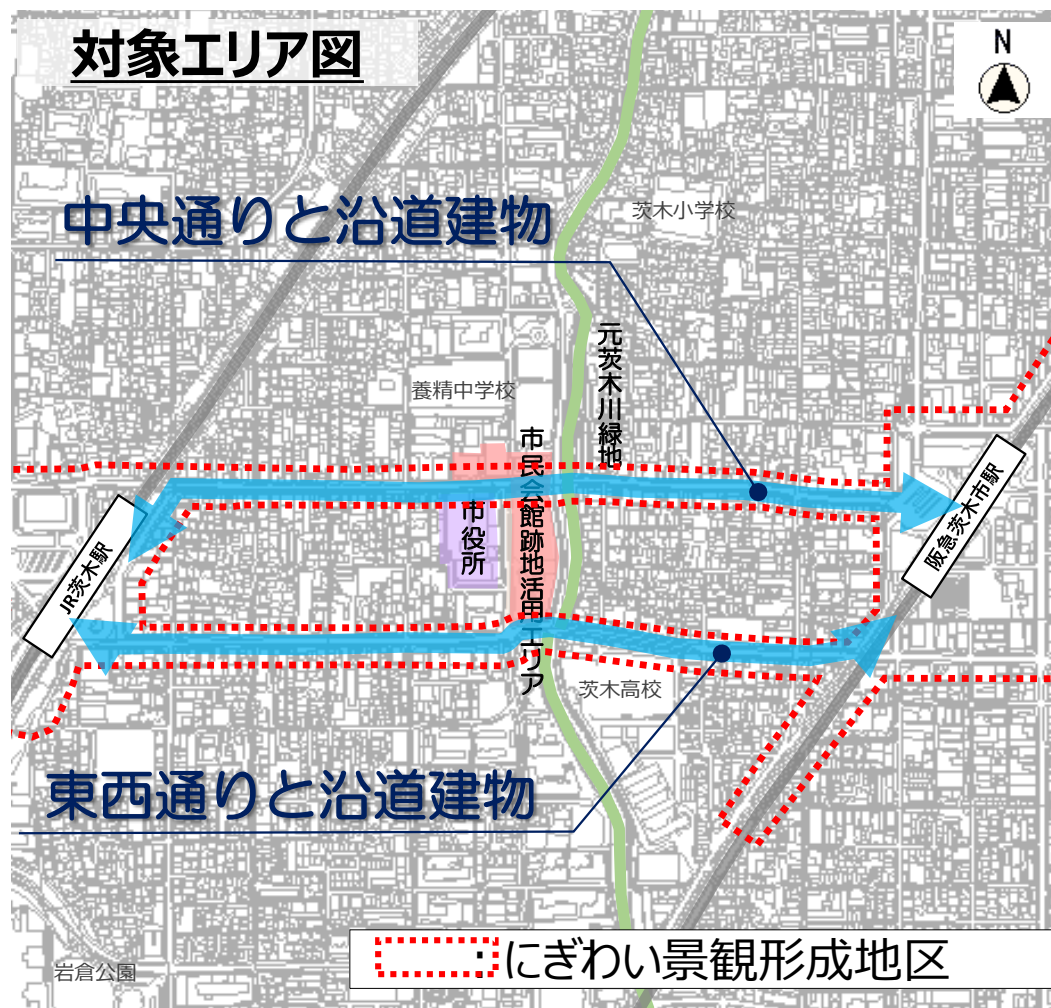
## ①取組の背景

- ・本市のメインストリートである東西軸（中央通り、東西通り）は、歩道が狭く、自動車中心の道路となっている。さらに、自転車の利用者も多く、歩道上で歩行者・自転車の錯綜がみられる。
- ・また、日差しを遮るものや座る場所が少ないため滞在しにくく、通り過ぎる歩行者が多いため、にぎわいに欠けている。
- ・景観計画では、中心市街地を「にぎわい景観形成地区」へ位置づけ、良好な景観形成を誘導しているが、通り全体のイメージの共有や空間の活用の視点が不足している。

### ●中央通り



### ●東西通り





## ②取組の目的

中心部の各拠点をつなぐメインストリートとして、道路空間と沿道建築物が一体となった、歩いて楽しく滞在や活動したくなるような魅力ある景観形成を図ることにより、各拠点のにぎわいを面的に広げ、中心市街地の活性化に寄与する。

### ●拠点からエリア（面）へ、にぎわいの広がりイメージ

活動を促す場づくり（拠点・ハード）  
⇒面で捉え、波及効果を生み出す

南北軸（自然・文化的要素）  
元茨木川緑地

J R  
茨木駅

阪急  
茨木市駅

市民会館  
跡地エリア

東西軸（都市的要素）  
中央通り、東西通り



姫路市（大手前通り）

東西軸において、歩いて楽しく滞在や活動したくなるような魅力ある景観形成を図ります



松山市（花園町通り）

### ストリートデザインガイドラインの策定

#### ■ガイドラインに記載を検討する項目

- ・エリアの将来像
- ・道路空間のデザイン  
→路面、照明灯、街路樹、サインなどのデザイン
- ・沿道建築物のファサードデザインなどの基準
- ・空間の利活用、運営の方針や仕組み
- ・整備工程 など

（将来の方向性のイメージ）【実績例：大阪市御堂筋】



参考事例：御堂筋



参考事例：豊田市

### 景観計画への反映

#### ■景観計画に記載を検討する項目

- ・道路空間のデザイン（東西軸を景観重要公共施設へ位置づけ）  
→整備に関する事項及び占用基準として反映
- ・沿道建築物のファサードデザインなどの基準  
→景観形成地区及び景観形成基準として反映
- ・ガイドラインの位置づけについても検討

コンセプト：都市と自然が次いでいる中心市街地

# (目次)

## (1) 取組の背景と目的

- ①取組の背景
- ②取組の目的

## (2) 令和3年度 of 取組内容

- ①アンケート調査
- ②先進市視察
- ③ワークショップ
- ④将来像の検討

## (3) 今後の取組の方向性

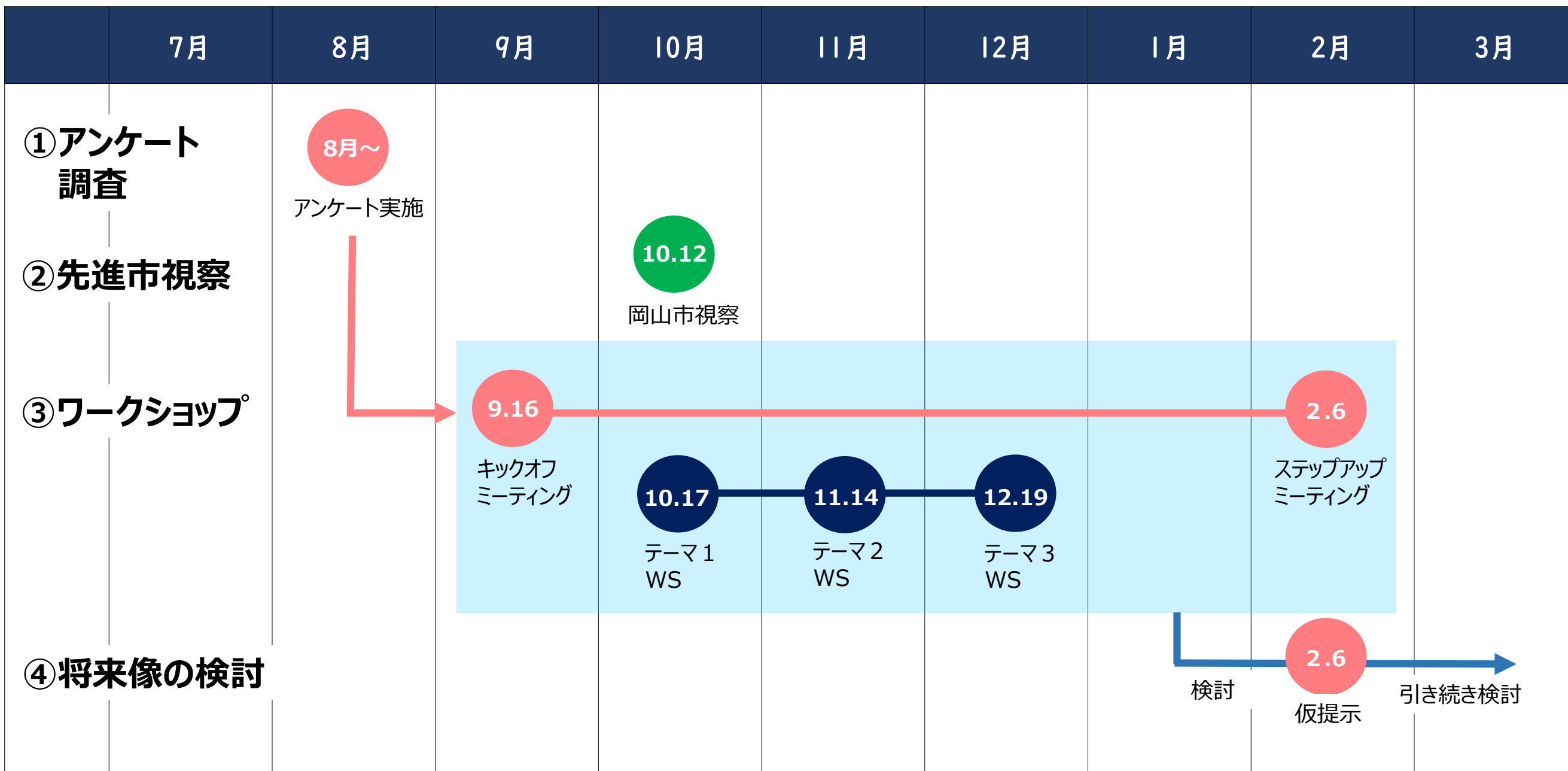
- ①社会実験
- ②ストリートデザインガイドラインの検討

## 令和3年度の取組内容

到達目標である「通りの将来像の検討」を公民連携で行うため、

①アンケート調査、②先進市視察、③ワークショップ、④将来像の検討を実施する。

取組周知をHP、SNSのほか、取組の都度、沿道関係者に対してチラシ配布等を実施する。



## ①アンケート調査

取組への市民参画促進及びワークショップの基礎資料収集のため実施する。

### <概要>

意見募集期間：令和3年8月16日（月）～9月14日（火）

回答数：66人（8割が21～60歳代、沿道勤務者、買い物利用者、居住者などが主な回答者）

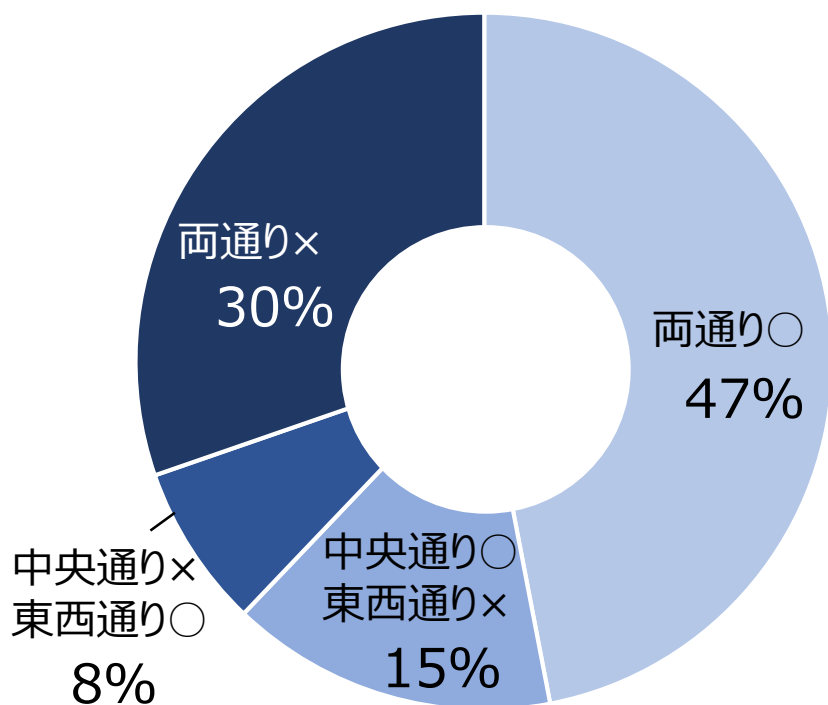
狙い：取組への市民参画促進、ワークショップの基礎資料収集

設問内容：①通りの愛称の認知度、②通りや沿道の利用状況、③通りの印象など

依頼手法：ワークショップチラシに添付し沿道関係者に配布、市ホームページにて募集

### 通りの愛称の認知度 (中央通り・東西通り)

両通りの愛称を知っている人は半数以下



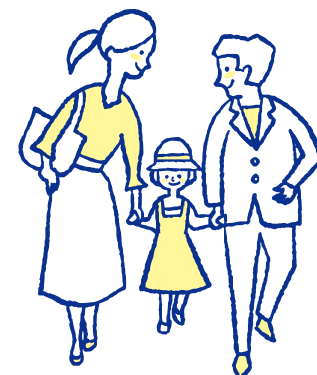
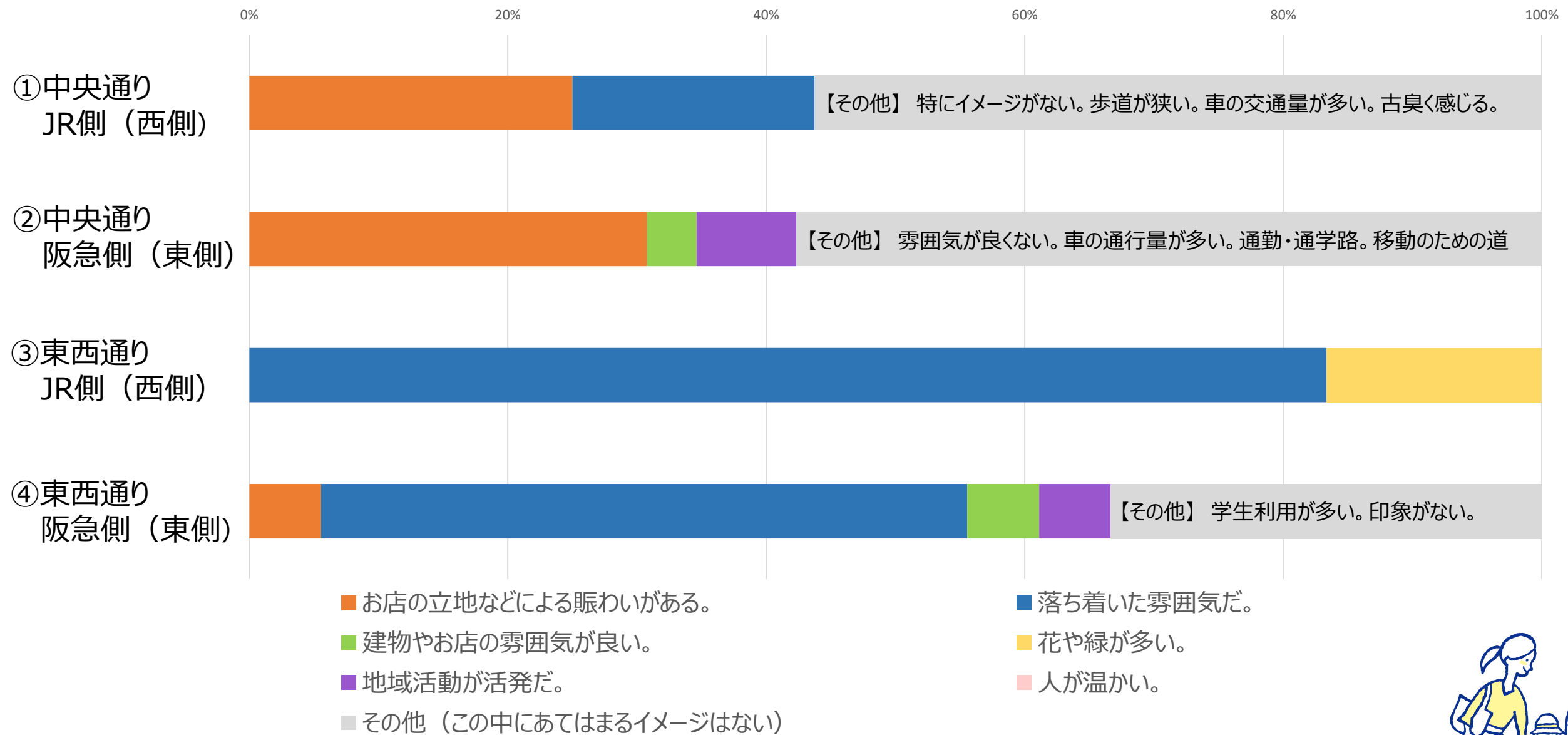
### 通りや沿道の利用状況

通りの利用は移動が最も多く、次いで飲食利用が多い。

		中央通り		東西通り	
		① J R 茨木駅 ～茨木市役所	② 阪急茨木市駅 ～茨木市役所	③ J R 茨木駅 ～茨木市役所	④ 阪急茨木市駅 ～茨木市役所
買い物	日用品	1	7	2	8
	日用品以外	1	3	0	0
飲食（店舗での飲食）		5	9	1	1
移動	通勤・通学などの目的地へ向かう移動	13	15	5	15
	散歩などの自由な移動	3	3	2	6
運動（ジョギングや体操など）		0	1	0	1
仕事	お店や事業所の経営	1	3	0	0
	お店や事業所での勤務	3	3	0	0
滞在（ベンチや軒先などでの滞在）		0	1	0	0
その他		1	4	1	1
その他の内容		実家があるので寄ります。	参拝 茨木神社参拝、イベント参加、自宅、阪急茨木市駅から市役所や関連施設及び友人宅などへの移動	病院	子育て地蔵さんへのお参り（日頃の感謝を伝える）

通りの印象

中央通りは、お店の賑わいがあるとの回答が多く、東西通りは、落ち着いた雰囲気との回答が多い。





## ②先進市視察

沿道関係者との機運醸成、関係機関との協議・調整、デザイン面の工夫などについてヒアリングする。

<岡山市への視察>

日時：令和3年10月12日（火）

狙い：取組の進め方などが特に参考となる先進市の事例について、ヒアリング及び現地視察を行うことにより、今後の取組みの参考とする。

### 岡山市の取組

#### 沿道の機運醸成



- 講演会
- 公開会議
- マーケット



#### 社会実験



#### デザインパース作成



#### 環境整備





## 主なヒアリング内容

### ■ 全体

- ・多くの参加者が同時に取組をしている風景を見せたい気持ちもあるが、**少なくともいいのでやる気のある人が取り組んでいる事例を積み重ねていくのも重要。**

### ■ 沿道関係者との機運づくり

- ・**社会実験を展開するようになってから、徐々に良い反応が得ることができた。**1軒ずつの個別訪問に加えて、前年度のデザインミーティングの中でみんなでやろう！という雰囲気が出たので、スムーズであった。
- ・道路空間の活用については、まったくイメージが湧いていない人が多い。そういう方には**言葉でいくら伝えても難しく、実際の良い事例を見せていくことが一番重要**である。

### ■ 関係機関との協議・調整

- ・社会実験時には、道路管理者から**安全面をかなり指摘**された。
- ・環境整備にあたって、警察協議は相当難航し2年を要したが、**粘り強く交渉することにより、実現**へとつながった。
- ・社会実験を行うにあたっては、庁内で協議会を創設した。

### ■ デザイン面の工夫

- ・高木の設置のほか、**照明やボラードの配置や色彩の統一**など
- ・ベンチについても、良いものにこだわった。



### ③ワークショップ

中央通りと東西通りを、より魅力的な通りにするための方策などを官民で検討する。

#### <概要>

日時：令和3年9月16日（木）～令和4年2月6日（日）計5回

参加対象：沿道関係者、東西軸の取組に興味がある方

区分：<ミーティング> 先進事例や着眼点などを学ぶ場

<ワークショップ> 魅力的な通りにするための方策などについて検討を行う場

狙い：ワークショップを通じて、通りの将来像の検討や課題の整理、機運の醸成を図る。

#### キックオフ ミーティング

通りをより魅力的にするためのワークショップにこれから取り組むにあたっての、先進事例やポイントなどを学ぶ。

#### ワークショップ

魅力的な通りの将来像について3つのテーマで検討

テーマ1  
通りの“ミヨク”を  
探しに行こう！

まち歩きを通じて、通りの現  
状・課題・魅力を共有する。

テーマ2  
通りの“ミライ”を  
イメージしよう！

具体的シーンを想像し、通り  
の将来像につながるキーワー  
ドの抽出・共有を行う。

テーマ3  
通りの“コセイ”を  
引き出そう！

通りの将来像に資する取組  
案の検討を行う。

#### ステップアップ ミーティング

今年度のとりまとめと来年度の社会実験等に向けての機運醸成の場として、専門家を交えて学び、語り合う。



# キックオフミーティング

ストリートデザインの専門家からストリートの活用事例や活用に向けたポイントを学ぶ。



講師：山口敬太 氏

## <概要>

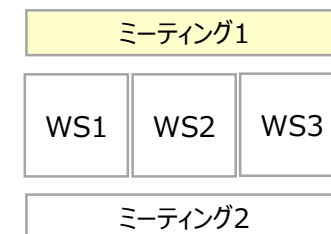
開催日時：令和3年9月16日（金）19時～21時

開催場所：IBALAB@広場

参加者数：49人

講演テーマ：まちの魅力を高める公共デザインとは 講師：山口敬太 氏

狙い：まちなかのストリートの潮流などを踏まえ、公共空間のあり方、方向性について、講師からお話をいただき、メインストリートの将来的なあり方を考えるきっかけとする。



## 主なレクチャー内容

### ■ 道路の可能性

- 道路を活用し、人々が居心地よく過ごせるような場にすることで、まちに賑わいが生まれ、より魅力的になります。
- 海外や日本の一部都市では、すでにその取組みが始まっています。

### ■ 茨木市のメインストリート

- 交通量が多く、道路や歩道の幅員も広くありませんが、できることは必ずあります。
- 小さな活用実験を積み重ねることで、少しずつまちが魅力的になっていきます。

### ■ メインストリートの将来像の共有

- まずは、多くの人を巻き込めるような、メインストリートの将来像（ビジョン）を共有することから始めましょう。



約50名の方が参加されました



## <参加者からのご意見>

中央通り・東西通りは  
こうなってほしい



▶ 沿道駐車場を活用したコンサートや、街路樹のイルミネーション、新しい市民会館の開館に合わせたストリートフラッグ掲示など、晴れやかな雰囲気演出して、**歩いているだけでワクワクするような道路にしたい!**

▶ 魅力的なビジョンをみんなで話し合っってしっかり固めるのと同時に、**変化に対応できる柔軟さも必要**では。



▶ **中央通りと東西通りは、沿道も含めてそれぞれ特徴があるので、いろんな意味で役割分担できそう。**まずは比較的交通量の少ない東西通りから取り組んでいくのもあり。

▶ 自転車も歩行者も快適に移動するためには、それぞれの安全な動線確保が必要だが、**道路幅員が変えられない**中でどういことができるだろうか。。。

▶ 茨木市の場合、元茨木川緑地との交点部分から始まるのが現在の交通への影響も小さいのではないかと。



様々な課題をひとつずつ  
解決していく必要がある





# WS テーマ1 通りの“ミリョク”を探しに行こう！

車いす等を使い、様々な利用者目線でまち歩きを行い、2つの通りの現状・課題・魅力を確認する。

ミーティング1		
WS1	WS2	WS3
ミーティング2		

## <概要>

開催日時：令和3年10月17日（日）14時～16時

開催場所：福祉文化会館202号室

参加者数：29人

狙い：WS参加者と①市の課題認識、②中心市街地の方針、③現況調査結果、④アンケート結果などの共有を行うとともに、様々な利用者の視点でまち歩きを行うことを通じて、通りの現状・課題・魅力を共有する。



## 通りで気づいたこと（参加者からのご意見）

詳細は別紙2（ニュースレター#02）参照

### 通りの使われ方

#### 中央通り

- ・通勤・通学で通る人が多い
- ・道行く人が前しか見ていない
- ・バスなどの車通りが多く、歩道が狭いため圧迫感がある

#### 東西通り

- ・坂道のところで、歩行者や車椅子の人はしんどくなり、自転車は下りでスピードを出し過ぎる

### 1階部分の様子

#### 全体

- ・良いお店が多い一方、立ち止まったり立ち寄れるようになっていない
- ・マンションの1階が寂しい印象があり、店舗になれば更に良くなる

#### 東西通り

- ・看板が少なくて落ち着く
- ・クリニックなど、休日はシャッターが閉まるテナントが多い

### 道路の附属物（植栽やベンチなど）

#### 全体

- ・立ち寄って休めるような休憩スペースやベンチがあつたらいい
- ・バス停に座るところがない

#### 東西通り

- ・緑が多く、花もあると一層良くなる
- ・道路が広く開放感がある
- ・歩道の植栽が大きく、一部で道が狭くなっている

### 自転車での通行

#### 中央通り

- ・交通量が多く、走るのが怖い
- ・車の路上駐車が邪魔
- ・沿道に駐輪場がない
- ・自転車がどこを走つたらいいのかわからない

#### 東西通り

- ・幅員が大きいので、走りやすい
- ・自転車目線では、低い緑は目に入らず、高い木の緑を感じることができる

### 建物のデザイン ポリューム感

#### 全体

- ・商業地域なので今後は高層化していくのかもしれない
- ・外に対して開いているお店が多い

#### 中央通り

- ・魅力的な和風の家屋が残っている
- ・建物の新旧の差が激しいなど、統一感がない



### <まち歩きで見つけたもの>

印象

搬入時間以外で側道が活用できそう

課題

素敵なお店が多いがゆっくり立ち止まる空間がない

魅力

IBALAB@広場ができて魅力が大幅アップ

空いている駐車スペースが活用できそう



東駅前公園は緑が豊か

親子が楽しめるスペースが多い

歩行者やバス等の車通りが多く、歩道が狭い

大きな植栽樹が歩道を狭めている

ドーナツ屋の前の角地に広いスペースあり

坂道では歩行者はしんどく、自転車は速度が増す



#### (中央通り)

- ・交通量が多く走るのが怖い
- ・自転車がどこを走ればいいのか分からない
- ・沿道に駐輪場がない

自転車利用者の意見





## WS テーマ2 通りの“ミライ”をイメージしよう！

歩きたくなる「通りの将来像」のイメージやキーワードについて考え、議論する。



### <概要>

開催日時：令和3年11月14日（日）14時～16時

開催場所：ローズWAM501・502号

参加者数：30人

狙い：歩きたくなる通りの具体的シーンを想像し、通りの将来像につながるキーワードの抽出・共有を行う。

ミーティング1		
WS1	WS2	WS3
ミーティング2		

## 当日の内容



STEP1

前回のまち歩きで見つけた通りの特徴を各班で共有



STEP2

グループワーク①  
どんな通りだったら歩きたくなるのかをワークシートを用いて様々なシーンをイメージ



STEP3

グループワーク②  
イメージした具体的シーンを踏まえて、将来の通りで大切にしたいキーワードを抽出



STEP4

発表を通じて、各班の内容を共有

歩きたくなるストリートのイメージ

キーワード

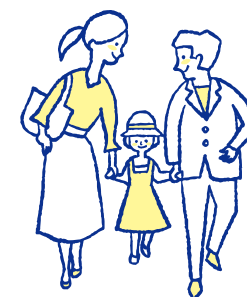
1 班

- ・四季を感じる事ができる通りであれば歩きたくなる。
- ・目的地へ向かう道の途中からワクワクできる通りがいい。
- ・エリア全体で楽しい空間にしたい。目的地は新施設のイメージ

⇒ 景観的な統一感

- ・開放的なテラス席でふらっと一杯、ストリートでも楽しめるようになったらよい。
- ・沿道の方が気軽に集まれ、コーヒー片手に会話を楽しみたい。
- ・そこに行けば誰かに会えるようになればよい。
- ・一人でぼーっとできるなど、一人の時間を大切にしたい。

⇒ ふらっと立ち寄れる  
人の営みを感じることができる通り



2 班

- ・ささやかなコミュニケーションが、どこか心地いい。
- ・通学する学生は、「急いで歩いている」だけで、そこで人と人のコミュニケーションがあれば、朝のゆとりや豊かさが生まれる。

⇒ 人と人の“ワン・コミュニケーション”がある通り

- ・通りのミライは“ミライがある通り”では！
- ・全ての人にとってウェルカムな通りとなるのがメインストリート
- ・通りの店舗は、ガラス張りで中で何をやっているのかわかると入りやすくなる。

⇒ ちょっと先の“ミライが見える”通り  
多世代の様子が“見える”通り

歩きたくなるストリートのイメージ

キーワード

3班

- ・自然や季節を感じることが出来たら歩きたくなる。
- ・一人で昼に散歩する時に、緑が多くて落ち着ける雰囲気があると歩きたくなる。
- ・通りに雰囲気がいい店があり、賑わっているのを見ると幸せな気持ちになる。
- ・通りにあるお店の人と立ち話できると楽しい。
- ・何も考えずにゆったりできる場所があれば、寄りたくなる。
- ・子供は椅子に座りたがるので、通りに座る場所があると安心して出かけられる。

⇒ 自然に触れる、季節を感じる

⇒ 外に開いて入りやすい店、楽しく食事できる店、店員とコミュニケーションが取れる店

⇒ 休憩したい、のんびりしたい

4班

- ・茨木神社の中は季節の変化が感じられて、元気になる。
- ・日々の通勤通学時に“がんばるぞ”とスイッチが入るような通りがいい。
- ・そもそも中央通りや東西通りは2人で並んで会話しながら歩けるような安心・安全な道ではないんじゃないか。
- ・“まちなかUSJ”（歩くたびに発見があり、ワクワクするストリート）のようなストリート
- ・まちなかの人々が歌ってくれるような歓迎ムードのあるストリート
- ・歩いている人が主役になるストリート

⇒ 愛でる空間がある

⇒ 安心・安全  
並んで歩ける通り

⇒ いつでも主役になれる





## WS テーマ3 通りの“コセイ”を引き出そう！

歩きたくなるメインストリートの形成に向けて、**取組や空間活用のアイデア**を考える。



### <概要>

開催日時：令和3年12月19日（日）14時～16時

開催場所：福祉文化会館202号室

参加者数：28人

狙い：通りの将来像に資する取組や空間活用案の検討を行う。

ミーティング1		
WS1	WS2	WS3
ミーティング2		

## 当日の内容



STEP1

前回WSで考えた「歩きたくなる通りの将来像（大事にしたいキーワード）」を共有



STEP2

グループワーク①  
通りの特性を踏まえ、モデルスポットを選びました。



STEP3

グループワーク②  
歩きたくなる通りの将来像を実現するための空間の設えや、人々の活動等を模型にして具体化しました。



STEP4

発表を通じて、各班の内容を共有



## <意見として多い要素>

- 人の活動や顔が見えるなど、まちが活着ている感じが感じられるのが良い
- 立ち寄り、ゆっくりできるような空間のニーズが高い

詳細は別紙4 (ニューズレター#04) 参照

### 歩きたくなるストリートってどんな空間？

歩きたくなるストリートイメージし、どのような場所でどのような取組や空間づくりを進めていきたいかについて4つのグループで話し合った内容をまとめました。



どういった場所を使いたい、活用できそうな場所はどこかを話し合い、モデルスポットを抽出しました。



抽出したモデルスポットの模型を使って、具体的な空間づくりを考えました。

#### “多世代が集える”にぎわいストリート

店舗が集積している場所で、側道を使って賑わい空間を作りたい

ウッドデッキを設置し、車いすやベビーカーが移動しやすい設えにする



歩道にもテーブルやベンチなどを設置し、自転車を押して通過するように促す

側道に芝生を敷いて人々がお店で買ったものを食べたり、くつろいだりできるようにする

#### 賑わうエリアに“ふらっと”立ち寄れるスポット

色んな人が集える場所が通りの中にあると良い

周辺のお店でテイクアウトしたものを食べられるようにベンチやテーブルなどを設置する



通り沿いの場所を滞在できる空間にする

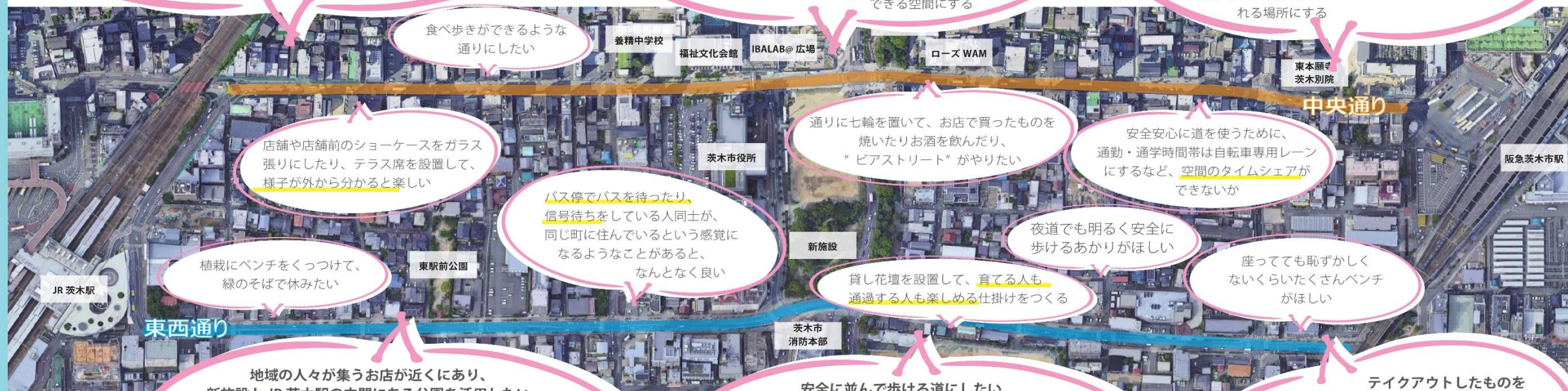
#### “自然に触れて憩える”ストリート

通りの中に緑や水辺を感じられる場所がほしい

既に緑がある空間の近くに、緑空間をつくり、一体的な緑の空間をつくる



水辺や足湯をつくったり、お店や家の前では、打ち水をしったりして、水を感じられる場所にする



店舗や店舗前のショーケースをガラス張りにしたり、テラス席を設置して、様子が外から分かると楽しい

バス停でバスを待ったり、信号待ちをしている人同士が、同じ町に住んでいるという感覚になるようなことがあると、なんとなく良い

通り七輪を置いて、お店で買ったものを焼いたりお酒を飲んだり、“ピーストリート”がやりたい

安全安心に道を使うために、通勤・通学時間帯は自転車専用レーンにするなど、空間のタイムシェアができないか

夜道でも明るく安全に歩けるあかりがほしい

座ってても恥ずかしくないくらいたくさんベンチがほしい

賞し花壇を設置して、育てる人も通過する人も楽しめる仕掛けをつくる

#### 安全に並んで歩ける道にしたい

沿道にある空地や駐車場などを活用し、歩ける幅を増やす



芝生を設置して憩えるようにしたり、キッチンカーや屋台を置いて誰かと歩きたくなるような通りにする

#### テイクアウトしたものを食べる場所がほしい

最近、通りにおしゃれなスイーツの店が増えてきている。さらにキッチンカーを呼ぶなどスイーツ通りのようにできないか



食後の休憩ができるハンモックを設置する

#### 地域の人々が集うお店が近くにあり、新施設と JR 茨木駅の中間にある公園を活用したい



公園入口の植栽帯を撤去してウェルカムな雰囲気をつくる  
公園内にベンチを設置し、キッチンカーなど飲食系の営業をしてもらい、ふらっと立ち寄れる場所にする

紙面に載せきれないたくさんの空間づくりのアイデアが生まれました

#### 目的地間で“ふらっと”立ち寄れる広場

#### 安心して“並んで歩ける”ストリート

#### “会話もスイーツも楽しむ”ストリート

今回のワークショップで出たアイデア等を踏まえて、次年度に実施する社会実験の内容を検討していきますが、関係機関協議等により、実施場所や内容が変更になる可能性があります。



# ステップアップミーティング

講演やクロストークなどにより、参加者の取組への機運を醸成する。



講師：園田聡 氏

## <概要>

開催日時：令和4年2月6日（日）15時～17時

開催場所：福祉文化会館303号室

参加者数：42人

狙い：今年度の振り返りを行い、次年度の社会実験等に向けての機運醸成の場とする。  
通りの魅力をまちの魅力につなげていくための仕掛けや継続的な仕組みについて、知識を深め、考えてもらうきっかけとする。

ミーティング1		
WS1	WS2	WS3
ミーティング2		

## 当日の内容

**いばらきストリートデザインワークショップトークイベント**

まちなかの価値を高める  
ストリートの  
使い方・つくり方

2.6日  
15:00~17:00  
会場：福祉文化会館 303号室

参加無料

**プログラム**

■レクチャー（園田聡氏）  
「まちなかの価値を高めるストリートの使い方・つくり方」  
メインストリートの将来像の実現に向け、京年度以降、社会実験など様々な取組を進めていくため、プレイスメイキング（公共空間等を活用した生活の豊かさを高める各場所づくり）の取組や持続的な仕組みづくりを全国各地で実践している園田聡氏をお招きし、全国各地の事例をもとにお話しいただきます。

**スピーカー**

【講師】  
有明会社  
ハートビートプラン 取締役  
園田 聡氏

【司会】  
専門は都市デザイン、プレイスメイキング、大阪・東京を拠点に全国各地でプレイスメイキングの推進・手法を用いた実践・研究に取り組む。

■クロストーク（園田聡氏×山口敬太氏×福岡洋一氏）  
「茨木らしいメインストリートとは...」  
今年度のワークショップのアドバイザーである京都大学大学院の山口准教授、福岡市長にもご登壇いただき、まちの魅力や価値を高めていくストリートのあり方について、会場のお客さんと一緒に考えていきます。

参加をご希望の方は 2月4日(金)締切

【定員】40人 ＊大幅に超える場合は、抽選とします  
【対象】東西通り中央通り沿道で働いている方、お住まいの方、この取組に興味がある方  
右のQRコードからお申込みいただくか、以下の内容を記載し、メールもしくはFAXにてお申し込みください。①氏名（ふりがな）②年齢③電話番号④メールアドレス

参加申込はこちら

※お問い合わせ先：茨木市都市整備部 都市政策課 まちづくり係 TEL:072-620-1660 FAX:072-620-1730 E-mail:toshi@city.ibaraki.lg.jp

### 講演



【テーマ】まちなかの価値を高めるストリートの使い方・つくり方

通りの将来像の実現に向け、全国各地でプレイスメイキングという考え方をを用い、まちづくりの実践をされている園田氏からの講演

### クロストーク



- ①【講演講師】(有)ハートビートプラン 取締役 園田聡 氏
- ②本WSのアドバイザー兼 京都大学大学院 准教授 山口敬太 氏
- ③福岡市長 の3者によるクロストークを実施

## <レクチャー & クロストーク内容>

### ■ まちの魅力

- ・まちの魅力は、義務的な活動でなく、自ら**やりたいと思えるような活動（散歩、読書、遊び、会話など）がどれだけ起きているか**で決まります。
- ・コロナ禍では、**道路や広場などの身近なパブリックスペース**で、そのような自由な活動ができる場所を生み出していくことがますます求められています。まずは小さな試行からはじめていきましょう。

### ■ 場づくりのポイント

- ・「なぜやるのか」という想いを共有しながら、**自分ごととができる人々と共に創っていくこと**を意識しましょう。
- ・複数の場所でいろんな人がやりたいことをテーマごとに考えていけるといろんな可能性が見出せそうです。
- ・質が高く、持続可能な運営には、**適切な役割分担を行うことも大切**です。地域の方や事業者・団体によるアイデアや質の高いサービスの提供と、行政による適切な権限移譲が合わさることが望ましいです。

### ■ 茨木のメインストリートの可能性

- ・時間帯によって人がぱったりといなくなるオフィス街や繁華街でもない、**人の暮らしが根付いたストリートであることに可能性**を感じました。あくまで、**住むことがベースにあって、そこに住む以外の楽しみが増えていく**ことで、暮らしの豊かさを感じられるのだと思います。
- ・道路幅員にそれほど余裕はないようですが、例えば、お店の中の様子が見えるようにするなど、**占用せずに沿道の豊かさを感じられる方法**は必ずあります。  
車の交通量が多くコインパーキングが多いならば、1日最大料金を支払ってそこを借り切ってしまうなども面白いかもしれません。





キックオフ  
ミーティング

ワークショップのキックオフとして、**機運の醸成につながった**。参加者からは、「フラッグを掲出するなど歩いているだけでワクワクするような道路にしたい!」「中央通りと東西通りはいろいろな意味で役割分担できそう」など、**茨木での取組について、様々なご意見があった**。

ワークショップ

テーマ1  
通りの“ミヨク”を  
探しに行こう!

参加者とこれまでの調査等の結果を共有することができ、**まち歩きを通じて現状・課題・魅力の整理が進んだ**。

<主な反映想定>

ガイドライン

- ▶ 現状パートへの反映

社会実験

- ▶ 将来像の具体化の視点

テーマ2  
通りの“ミライ”を  
イメージしよう!

歩きたくなる通りのシーンをイメージし、キーワードにまとめることで、**通りの将来像のイメージを言語化し、共有することができた**。

<主な反映想定>

ガイドライン

- ▶ 通りの将来像への反映

社会実験

- ▶ 目指す将来像の提示

テーマ3  
通りの“コセイ”を  
引き出そう!

歩きたくなるメインストリートに向けて、**将来像につながる取組や空間活用のアイデア**について、検討することができた。

<主な反映想定>

ガイドライン

- ▶ 空間イメージの反映

社会実験

- ▶ 社会実験実施のポイント

ステップアップ  
ミーティング

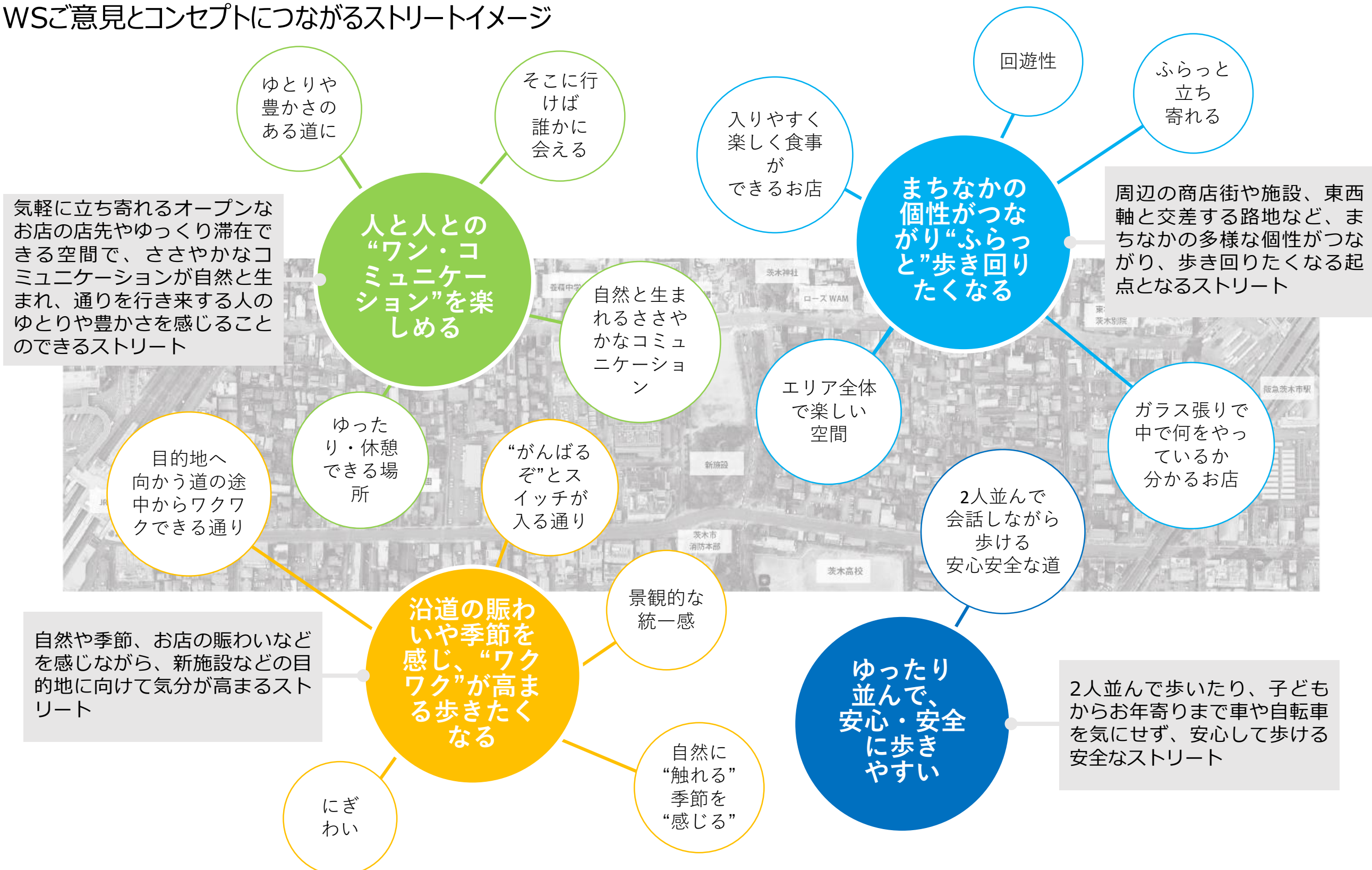
今年度のワークショップにおける意見等を踏まえた、**メインストリートの将来像（素案）の提示**を行い、参加者と共有した。また、次年度、社会実験を通して、将来像を実現していくにあたって**意識すべきポイントや具体的手法**などについて**学ぶことができ**、参加者の機運の醸成につながった。



### ④将来像の検討

WSの結果から、めざすべき通りの将来像を検討する。

WSご意見とコンセプトにつながるストリートイメージ



## めざすべき通りの将来像 (素案)

### めざすべき将来コンセプト

人が主役になり、まちの魅力を“<sup>つな</sup>次ぐ”2つのメインストリート

市役所、新施設・広場などがある中心部と両駅をつなぐメインストリートとして、目的地へ向かう期待感や魅力的な雰囲気演出する空間をデザインし、ストリートの魅力をまち全体に広げていく。

### めざすべき将来像に基づくストリートイメージ

#### ①人と人との“ワン・コミュニケーション”を楽しめるストリート

点

スポットづくり  
滞在空間

気軽に立ち寄れるオープンなお店の店先やゆっくり滞在できる空間で、ささやかなコミュニケーションが自然と生まれ、通りを行き来する人のゆとりや豊かさを感じることでできるストリート

#### ②沿道の賑わいや季節を感じ、“ワクワク”が高まる歩きたくなるストリート

線

通り全体での魅力的な雰囲気づくり

自然や季節、お店の賑わいなどを感じながら、新施設などの目的地に向けて気分が高まるストリート

#### ③まちなかの個性がつながり、“ふらっと”歩き回りたくなるストリート

面

通りから  
まち全体へ

周辺の商店街や施設、東西軸と交差する路地など、まちなかの多様な個性がつながり、歩き回りたくなる起点となるストリート

#### ④ゆったり並んで、安心・安全に歩きやすいストリート

安心・安全

2人並んで歩いたり、子どもからお年寄りまで車や自転車を気にせず、安心して歩ける安全なストリート

# (目次)

## (1) 取組の背景と目的

- ①取組の背景
- ②取組の目的

## (2) 令和3年度の取組内容

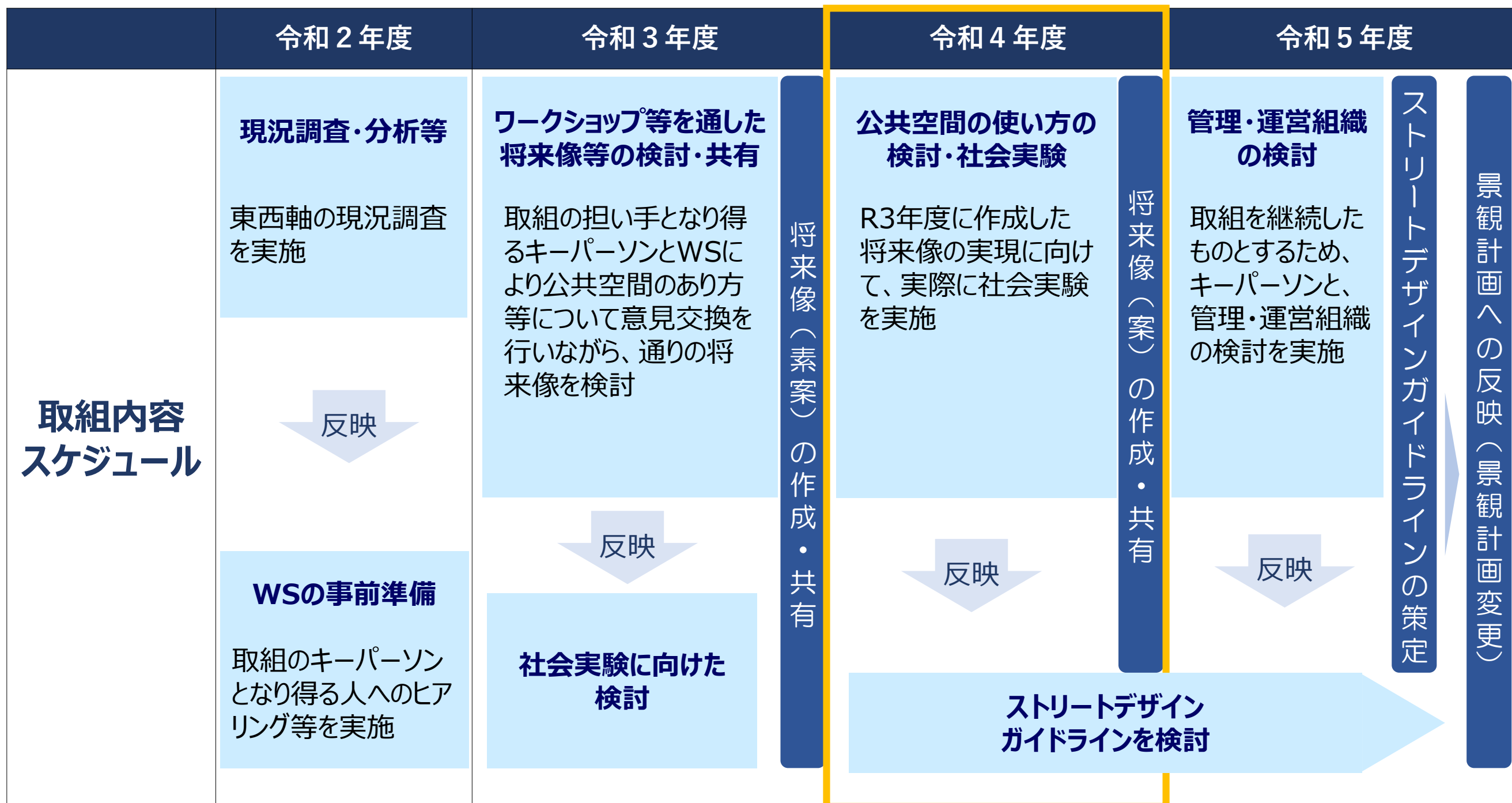
- ①アンケート調査
- ②先進市視察
- ③ワークショップ
- ④将来像の検討

## (3) 今後の取組の方向性

- ①社会実験
- ②ストリートデザインガイドラインの検討

## 実施スケジュール (全体)

令和3年度は、ワークショップ等を通じた将来像等の検討・共有を実施。令和4年度の社会実験で検証を行い、令和5年度にはストリートデザインガイドラインの策定や景観計画への反映を行う。

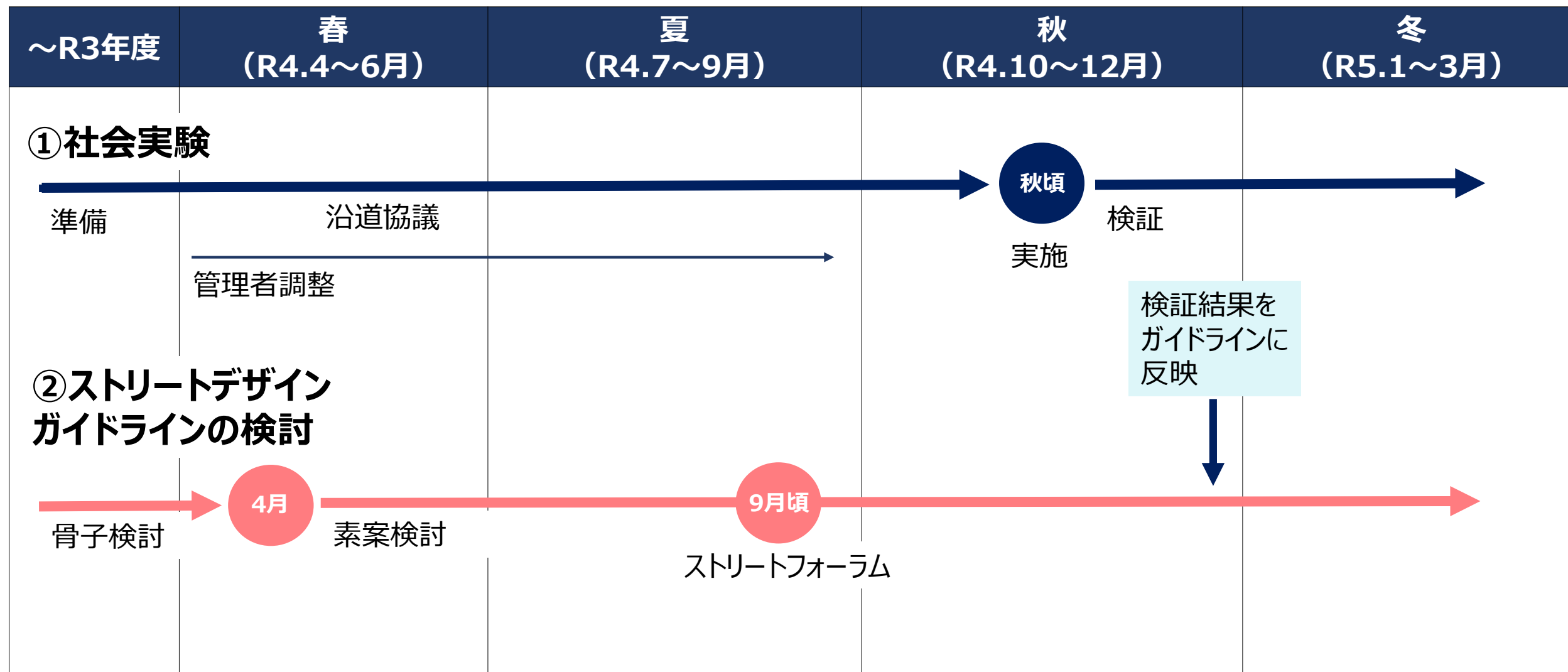


## 令和4年度の実施内容 (予定)

将来像の実現に向け①社会実験や②ストリートデザインガイドライン策定に向けた検討を行う。

### 令和4年度の到達目標

令和3年度で検討した通りの将来像の実現に向け、官民連携による社会実験の実施や魅力ある通りの指針となるストリートデザインガイドラインの検討を行う。





## ①社会実験

通りの将来像のイメージを具体的に検証するため、社会実験を実施する。

### <概要>

実施予定：令和4年秋頃

狙い：①めざすべき将来像を具現化し、利活用状況や回遊状況等を検証する。

②通りの空間活用、管理運営の担い手となりえる沿道の商店街や地域住民の意識や機運を醸成する。

③道路管理者や交通管理者等の将来的な空間イメージに対する理解向上を行う。

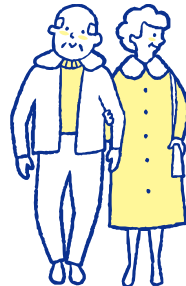
## WSの意見

### <内容>

- ・ 晴れやかな雰囲気演出して、歩いているだけでワクワクするような道路にしたい。  
(ストリートフラッグ、イルミネーション等)
- ・ 店舗が集積しているところで、側面を使って賑わい空間を作りたい。(テーブル、ベンチ等)
- ・ 地域の人々が集うお店が近くにあり、新施設とJR茨木駅の間にある公園を活用したい。  
(ベンチ、キッチンカー等)
- ・ 色んな人が集える場所が通りの中にあると良い。(ベンチ、テーブル等)
- ・ テイクアウトしたものを食べる場所がほしい。(キッチンカー、ハンモック) など

### <場所>

- ・ 中央通り：JR駅前商店会 側道部分  
高橋交差点  
IBALAB@広場
- ・ 東西通り：東駅前公園、消防署付近など



▶ 今後、WS意見をもとに社会実験の案を検討



# 社会実験イメージ (案)

沿道店舗と一体となった歩行者空間



大阪市

新施設に向けた沿道店舗・道路空間の統一感の演出

・バナーフラッグ等による空間の統一感の演出

阪急本通商店街との回遊性づくり

新施設周辺部の滞留性向上

東駅前公園の滞留空間化

各駅と新施設の間部の滞留空間の創出

植樹帯等を活用した滞留空間の創出

各駅と新施設の間部の滞留空間の創出



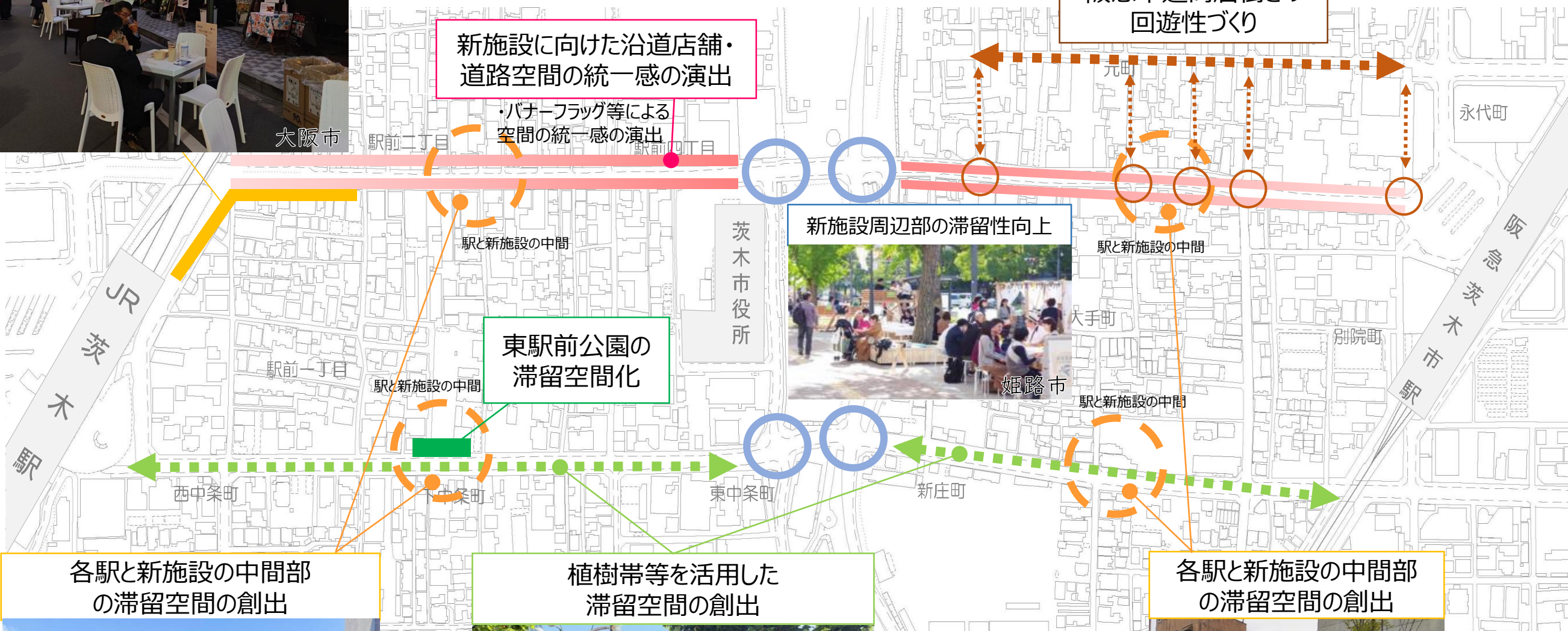
福井市



福井市



岡山市



## 社会実験実施に向けた体制等 (案)

空間提供者 (許可権者)

空間活用者 (プレイヤー)

### 社会実験の検討段階から関わりを作る必要がある主体

行政  
(道路管理者・  
交通管理者)

- 公共空間の利活用に向けての調整
- 将来的な交通社会実験等や維持管理の主体との空間イメージ共有、理解の醸成

沿道地権者・事業者等

- 公共空間の利活用・管理運営などを見据えた参画
- まちの担い手としての理解向上

活動の担い手  
(外部事業者含む)

- 公共空間の利活用の活動主体
- キッチンカー事業者など外部事業者の関わりも想定

円滑な社会実験に向けて、**実行委員会などの組織結成**を旨とし、取組を進める。



## ②ストリートデザインガイドラインの検討

魅力ある通りの指針となるガイドラインの策定に向けた検討を進める。

### イメージ (案)

- 現況調査
- ワークショップ WSテーマ2等

- 次年度の社会実験プロセスでの検討 (地元とのコミュニケーション)

下記をもとにたたき台を整理

- ワークショップ Wテーマ3等
- ・各スポットの空間イメージを参考に検討
- 次年度の社会実験プロセスでの検討 (社会実験での空間活用)



現況・ガイドラインの位置づけ

メインストリートとしての将来像

めざすべき将来コンセプト

めざすべき将来像に基づくストリートイメージ

ストリートイメージを実現するためのデザイン方針

3つのデザイン方針

つくる

道路空間を対象とした  
景観づくり

つかう

コモンを対象とした  
公共空間利活用

はぐくむ

民間敷地を対象とした  
まちなみ誘導

デザイン方針に基づく取り組み

取り組み

取り組み

取り組み

推進体制・スケジュール (短期・中長期レベル)

▶進捗状況の共有の場として、秋頃にフォーラムの開催を予定

# ガイドライン策定に向けての流れ (案)

